

ニホンザル管理事業における今後の検討課題について

1 主な群れの課題

(1) H群

平成 30 年度モニタリング調査で 31 頭が確認された群れで、海岸線に沿って南北に広い行動域を持ち、小田原市早川や片浦、真鶴町岩等で恒常的に農業被害、生活被害が発生している。

生息地には急峻な崖や耕作放棄地、防護されていない農地やヤブ、集落が点在している。一部の農地では電気柵の設置や農業者によって銃器による追い払いが行われている。

平成 29 年度に実施した GPS を活用した追い上げについて、群れの北上を防止することはできたが、西側山地への追い上げは成功しなかった。

平成 30 年度中に県は、地元住民とともに被害を受けている地域の集落環境調査に着手する。その結果をもとに、平成 31 年度に市、住民、追い払い隊、県、学識者等を交えた検討を行う。

(2) T 1 群

平成 30 年度モニタリング調査で 28 頭が確認された群れで、湯河原町や真鶴町、静岡県熱海市を行動域としている。分派行動が疑われており、平成 31 年 2 月に本隊と別行動をしていると思われる 6 頭の集団が目撃され、GPS の位置情報からも分派グループであることが推測された。

支援 C により平成 30 年度の重点取組地区として支援がなされ、その中で新型 GPS 首輪を活用した追い上げの試行が行われた。事業の中で T 1 群が移動するルート of の把握が進み、地元の追い払い活動に寄与できる情報が得られた。

(3) 日向群

平成 30 年度モニタリング調査で 35 頭が確認された群れで、伊勢原市や厚木市の玉川地区を行動域としている。伊勢原市等により個体数調整や農地への防護柵設置、サルパトロールによる追い払い等の対策が行われている。防護柵が設置された地域で被害が減る一方、未設置の地域での被害が続いている。

今後、対策が未実施の農地等をピックアップし、被害対策が行き届いていないところの対策を継続する。

(4) ダムサイト群

平成 30 年度モニタリング調査で 14 頭が確認された群れで、頭数は少ないが住宅街での出没が増加している。相模原市側では、夜間小学校付近に定着しているとの情報があり、愛川町側でも生活被害が報告されている。除去対象としたい旨の要望があるが、これまでの追い払い等の対策や公園での餌付け行為の

防止策などがとりまとめられていない。県から施設管理者に対し、餌付け防止のためのチラシや看板設置について 29 年度に依頼したが措置が取られておらず、30 年度に再度依頼を行う。

相模原市では自主防衛組織が組織される、愛川町ではダムサイト群の行動域での集落環境調査(果樹マップの作製)と誘因果樹の除去が行われるなどの対策が行われている。

(5) 川弟群・川弟分裂群・半原群

川弟群、川弟分裂群については、平成 30 年度のモニタリング調査においてそれぞれ 64 頭、74 頭の生息が確認されている。清川村から平成 31 年度より銃器による捕獲を実施したいとの要望が上がっている。川弟群、川弟分裂群はサイズダウンが必須で、いつ分裂してもおかしくない頭数である。また、群れを動かすには銃器を使うのが一番効果的である。銃器捕獲を実施する際に、群れの動きに変化がないかモニタリングで監視し、半原群の動向にも注意しながら実施を検討する。

2 サル計画全体の課題

現在、適正配置とするための群れの除去や管理困難な群れの除去については、伊勢原市や厚木市、小田原市において達成または達成目前となっている群れがある。また、適正規模とするための群れの縮小や、適正配置とするための群れの縮小についても順調に進んでいる群れが見受けられる。

今後、群れの除去や縮小が終わった後の群れの維持管理について、4 次計画の中間年にあたる平成 31 年度に中長期的で持続的なサル管理についての検討が必要である。